

## 論文

# 特別支援教育のあり様をめぐって（その2）

生野金三・豊澤弘伸・北村好史・桑原茂樹・中谷陽子

A Study of Support Education

SHONO Kinzo, TOYOSAWA Hironobu,  
KITAMURA Yoshifumi, KUWAHARA Shigeki,  
NAKATANI Yoko

### I はじめに

平成17年10月に中央教育審議会は、「新しい時代の義務教育を創造する」と題する答申を発表した。そのなかの「(3) 義務教育に関する制度の見直し」(第Ⅱ部 各論 「第1章 教育の目標を明確にして結果を検証し質を保証する」の項)の部分に特別支援教育をめぐって、次のような文言が認められる。

障害の種別ごとの盲・聾・養護学校を、障害の重度・重複化の対応し、小・中学校等を支援するセンター的機能をもつ特別支援学校に転換すること、また、小・中学校等において、特別支援教育の体制を整備し、LD、ADHD等の児童生徒への支援を充実することが必要である。<sup>(1)</sup>

従来は、特殊教育の対象とされていた視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者等の児童生徒と、LD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒とを分けてとらえていた。しかし、障害のある児童生徒の教育をめぐる諸情勢の変

化を鑑みると、今後は特別支援教育の視点より障害者である児童生徒一人一人の教育ニーズを把握し、それに適切に対応し、一層質の高い教育の実現を目指していくことが極めて重要である。このようなことが契機になってこれまでの制度が見直され、特別支援教育の方途が提言されたのである。これによって、従来の特級学級は、2007年を目処に「特殊支援学級」と名称を変えて存続し、そして盲・聾・養護学校は複数の障害に対応する「特別支援学校」に改められる。今後は、特別支援教育の充実に向け、様々な課題に着手していかなければならない。その課題をめぐっては、先の論稿「特別支援教育のあり様をめぐって（その1）」において触れたが、個々の教育支援計画の策定、特別支援教育のコーディネーターの役割理解、LD、ADHD、高機能自閉症等のガイドラインの周知徹底等とそれは多岐に亘っていた。このような課題に今後着手していくことはいうまでもないが、それと同時にノーマライゼーションの理念に基づく交流教育（障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流活動）の推進、更には人権教育、人権啓発の観点より障害者への認識を深める教育の推進等も行う必要がある。

以上のことを踏まえ、本論ではノーマライゼーションの理念に基づく交流活動、ノーマライゼーションの理念を実現するための理解啓発教育（障害者理解の）等の基礎論、そして特別支援教育における理解啓発教育の実際について探ることを目的とする。

## II 交流活動について

### 1 ノーマライゼーションの理念と「交流」と「共生」の課題

「ノーマライゼーション」は、その父と呼ばれるミケルセンの活動と彼が制定に努力したデンマークの1959年法に見られる「(知的) 障害者のために可能な限りノーマルな生活状態に近い生活を創造する」という精神にその原点を見ることができる。そして、ここから始まったノーマライゼー

ションの考え方は、全世界に伝播するにしたがって、少しずつ違った把握で展開されているといえる。

堀正嗣はノーマライゼーションの理念について、次に挙げる二つの側面をとらえ、その統一であると見ている。

- ① 障害者の生活を通常のものに近づけていく
- ② 社会を全ての人が共にいけるものに変えていく<sup>(2)</sup>

堀によれば、①は、ミケルセン（Mikklesen）やニリエ（Nirje）が追求したもので、障害者にできる限り通常の生活を保障し、通常の生活者としての存在を取り戻そうとするものということになる。「障害者施設」への収容によって、障害者がアブノーマルな存在として形成され、通常社会で生活するための力を剥奪されてきたとして、ノーマライゼーションを「障害者の生活を普通にする」と障害者が地域で自立していくための力を獲得するということの統一」ととらえる考え方である。「人間にノーマルな人間とアブノーマルな人間という二種類の人間がある」という考え方を認めない考え方」で、人間は人間であるという点でノーマルで、同じであるという考え方でもある。<sup>(3)</sup>

堀は、これを障害者の社会への同化を基本的なねらいとしているとして「ノーマライゼーションの同化的側面」と呼んでいる。

一方、②は、「障害者を排除して成り立ってきた社会への異議申し立てであり、社会こそが変わらなければならない」という立場であるという。障害者の立場から「普通」というものを問い直し、刷新していこうとするもので、建物の建設やまちづくりといった社会的な課題や文化や意識の変革といった課題が指摘できるという。堀はこれを「ノーマライゼーションの異化的側面」と呼び、「障害という問題を、ある個人とその環境との関係としてとらえることが、ずっとより建設的な解決方法である」という。<sup>(4)</sup>

ともにノーマライゼーションの理念を形成していく基本的側面であると同時に、相反する危惧を伴うものでもある。とりわけ、「交流」から「共

生」を目指す教育においては、次のような問題点が指摘されるという。少し長くなるが、引用する。

障害児であるがゆえに、健常児と同じ価値基準で見られないならば、それは明らかに、普通には見られていないということである。たとえ問題を持った価値基準であっても、それが一般に通用しているものならば、障害児もその価値基準で見られることが、あたりまえである。ノーマライゼーションは障害者が特別な役割期待——それは病者役割とか欠陥役割と言われるものであるが——の下に置かれる状態を克服しようとしてきた。

(中略)

能力主義的な詰め込み教育や受験勉強が、普通学級における「普通」のあり方だとすれば、障害児もこれを体験するのが自然である。たとえ勉強がわからなくても、わからない子どもは他にも大勢いるわけで、それを理由に特別扱いされる必要はない。また、「いじめ——いじめられる」関係も、子どもたちの「普通」の姿だとすれば、障害児だけが、こうした関係に置かれられないのはむしろ不自然である。このように、障害児が、あたりまえの一人の子どもとして普通の体験をしていく機会を保障する。これがノーマライゼーションの同化的側面の追求である。

この側面において、教師の役割は障害児が普通の体験をできるように援助することである。こうした側面でのノーマライゼーションの追求は、障害児が通常の社会生活から排除され、特別な扱いを受けてきたという状況を改善する上で重要な意味がある。しかしながら、このような側面における普通の追求は、普通の意味が問い直されない限り、限界に突き当たらざるをえない。<sup>(5)</sup>

「交流」と「共生」の教育においては、「障害児をあたりまえの一人の子どもとして見る」ということが重要になる。しかし、「あたりまえの一人の子どもとして見る」ということは、「普通学級の生活や教育のよい部

分も問題点も共に障害児が体験することがあたりまえ」ということになるのである。

「普通」や「あたりまえ」という概念のとらえ直しが今後の大きな課題としてあげられるいえる。

## 2 特別支援教育の制度と交流活動

世界的なインクルージョンの流れに引導される形で展開してきたともいえる日本の特殊教育は、「アジア太平洋障害者の10年」を契機に、障害者の自立と社会参加の促進への気運が高まり、心身障害者対策基本法の改正による「障害者基本法」が平成5年らに制定されることになった。これによりノーマライゼーションの理念に基づく障害者の社会参加・参画に向けた国による総合的な施策の推進が図られることとなり、ついで、16年に一部が改正された。ここでは、「障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習の積極的推進による相互理解の促進」が盛り込まれ、学校教育に対して、障害者の自立と社会参加を見通した取組を含め、重要な役割を果たすことが求められた。

ここに「交流及び共同学習」が特別支援教育の具体的展開における重要な方途として位置付けられた。

もっとも、それまでも、交流活動は、「交流教育」という形で教育課程の中に位置付けられていたが、人間形成や社会適応、学習活動といった教育的効果の向上を意図した、障害を持った児童生徒の発達の観点からの展開が主であったといえ、個別教育の枠の中にあつたと見ることができる。

平成16年の改正障害者基本法における「障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習の積極的推進による相互理解の促進」と17年の中央教育審議会答申「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」における「障害のない児童生徒との交流及び共同学習の促進」は、今後の特別支援教育における「交流活動」の役割を規定するものといえる。

「障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会」は、我が国が目指す社会像の一つである。<sup>6)</sup> これは、学校教育に関係する者はもとより国民全体に共有されることが必須の概念であり、特別支援教育の理念や基本的考え方もそれに沿う形で設定され、その実践も展開されることが求められる。<sup>7)</sup>

障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習の機会の設定においては、「あるがままで」「共に生きる」という視点の導入が重要な鍵となる。具体的な展開において「地域で生きる」という点も不可欠といえる。

基礎・基本を学ぶ学校では、交流についても学習する必要がある。そして、障害者を含めて誰とも望ましい人間関係の構築を目指して日々学習する場でもある。学校での望ましい交流が、地域に広がり、お互いをより知り合い、認め合い、共に生きることにつながるものとする。後ほど、その具体的展開について言及する。

### Ⅲ 障害者理解をめざした理解啓発教育をめぐる

#### 1 理解啓発教育の位置付け

ノーマライゼーションの理念の実現は、共生をめざす交流教育と、障害に対する正しい理解を導く啓発教育とが相まってなされるものである。

交流をスムーズにより自然な形で進めるためには、通常の学級への理解啓発授業は、欠かせない。通常の学級の児童が、障害に対して正しい知識を持つことで障害者へより望ましい態度で接することが期待できると考える。また、共生の社会を目指して地域で生活する時にも心身障害学級（以下心障学級）の児童との交流体験、そして、理解啓発授業で得た知識が生かされると思われる。さらにこの知識は、障害あるなしにかかわらず生かされるはずである。

ここでは、障害者理解のための啓発教育のあり方について、人権教育を

俯瞰しながら論考する。

障害者理解のための啓発教育を考えると、人権教育における「啓発」についておさえておく必要がある。平成11年7月29日に出された「人権擁護推進審議会答申」（以下、「人擁審答申」とする。）の記述を振り返りながら「啓発」の位置付けを明らかにしていこう。

人権教育では、「女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌ人問題、外国人、HIV感染者やハンセン病患者、受刑者等」をその課題として掲げている。上記の人擁審答申では、「……、就職に際しての差別の問題のほか、障害者への入居・入店拒否などの問題が依然として存在しており、さらに、施設内における知的障害等に対する身体的虐待事件の多発などが近時目を引く。」<sup>(6)</sup>と、「障害者」に係る具体的な課題を挙げている。答申にもあるように、人権尊重の理念についての正しい理解が定着していない背景には、人権の意義やその重要性についての正しい知識が充分に身についておらず、日常生活の中で人権に係るできごとに遭遇したとき、おかしいと思う感性や配慮しようとする感覚もまた身に付いていない現実がある。そこに、人権教育と人権啓発の意義がある。

人擁審答申では、人権教育を、「基本的人権の尊重の精神が身に付くよう、学校教育及び社会教育において行われる教育活動」とし、また、人権啓発を、「広く国民の間に、人権尊重思想の普及高揚を図ることを目的として行われる研修・情報提供・広報活動で人権教育を除いたものとする。」と定義付けている。さて、人権教育の一つの課題である「障害者」への学校教育における配慮については、平成14年3月15日に示された「人権教育・啓発に関する基本的計画」に次のように述べられている。<sup>(9)</sup>

……障害のある子どもに対する理解と認識を促進するため、小・中学校等や地域における交流教育の実施、小・中学校の教職員等のための指導資料の作成・配布、並びに学校 教育関係者及び保護者に対する啓発事業を推進する。さらに、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間といった学校教育活動全体を通じて、障害者に対する理解、

社会的支援や介助・福祉の問題などの課題に関する理解を深めさせる教育を推進する。

(下線引用者)

そこで、本稿で言及する「特別支援教育を支える共生をめざす交流教育と、障害に対する正しい理解を導く啓発教育」は、前述の人権教育の理念に基づき、学校教育という共通の場を媒介として行われる啓発をも包括する教育活動と位置付けられる。さらに、啓発教育については、「広く対象に向けて、障害に対する正しい理解の普及高揚を図ることを目的に、学校教育という共通の場を媒介として行われる研修・情報提供・広報活動等」と定義する。

さて、学校教育を通して行われる障害児教育に係る交流教育（A）と啓発教育（B）については、その能動者（ベクトルの起点）と受動者（ベクトルの終点）を勘案すると、次のようなマトリクスが考えられる。

受動者 能動者	児童・生徒	教職員	保護者等 (一般)
児童・生徒	A：交流教育 (仕組まれるもの)	(実態に学ぶ)	(実態に学ぶ)
教職員	B①：啓発教育 <授業等>	B③：啓発教育 <研修等>	B⑤：啓発教育 <広報・研修等>
保護者等 (有識者)	B②：啓発教育 <講義等>	B④：啓発教育 <情報提供>	B⑥：啓発教育 <広報・研修等>

表中のB①～B⑥に関して、それぞれのベクトルの起点と終点とを意識した啓発活動を組織していくこととなる。



## 2 理解啓発教育の実際（学校教育における実践から）

### (1) 実践に向けての心がまえ

子ども達とその保護者は教育に対し個人的に多様な期待を寄せており、その頂点に位置するものは、いうまでもなく学校である。学校教育およびその実践者である教師は、啓発教育の意図するところをしっかりと踏まえ、子ども達一人ひとりのニーズに応じた教育実践を充実させていかなければならない。

教育現場では今、従来の特殊教育から特別支援教育（障害があることから特に求められる一人ひとりのニーズに応じた教育支援）に移行しつつあり、そのために教師たちは子ども達と共に新しい教育状況を受け入れ、学校・学級の実践を育んでいかなければならない。

一般に指摘される、子どもと子どもの間でさえ交わされる人種や信条、性別、社会的身分や経済的地位などに対する差別の意識を取り除き、さらに障害そのものへの差別のまなざしの不適切さに気付かせ、仲間の持つ障害に近づこうとする意識の芽生えを積極的に育てることに大きな意義を見つけないければならない。

### (2) 理解啓発教育と教育環境

チャンスの設定は、前述の子ども—教職員—保護者および地域社会というマトリクスの中から工夫することが出来る。

まだ、実践校の事例数は少ないが、特に（小学校低学年を除く場合もあるが）通常学級の子ども達を対象にした啓発授業には、今後大きな期待がかけられている。

実際に行われている啓発授業の担当教員からのアドバイスでは、子ども達からの率直な質問を軸にして授業展開を図ると、子ども達の前向きな接近が図られるとのことである。

「校長通信」は啓発教育の最も説得力のある、また学校の真意を直接にすべての保護者に伝達出来る手段である。啓発ということばを使わずにも、

行事説明の中で触れたり、行間に含ませたり、校長の人柄と共に保護者に贈るメッセージである。

啓発授業の必要性は今後増加する。近隣の学校間で教師たちが話し合いや情報交換を行えたらより力のある新しい授業領域が展開される。教師間の交流が、例えば特殊学級（今後は特別支援教室と呼ばれる）のある学校と他校の交流に広がり、子どもたちの間に啓発的な体験が展開されるかもしれない。

最後にある事例をあげておく。数年前の全学校挙げての運動会でのことである。高学年の徒競走で、トップを走っていた子どもが運悪くつまづいて転び、スピードがあった為に膝をかなり痛めてうずくまった。そこへ真っ先に走り寄ったのが特殊学級の障害のある仲間であった。以下はその走者が後に文集に書いたことばである。

僕らの学年にもなると、転んだからといってとんで来てくれる友達などいない。でもあの子は誰にも言われぬのに走り寄って来て痛いかと僕の顔を心配そうに覗き込んでくれた。照れくさいなんて思わなかった、本当に痛かったから嬉しかった。障害児学級にいる子たちのことは同じ学校の中の仲間だけれども、誰も教えてくれなかったから何も分からなかった。もしかしたら勉強が苦手なのかもしれない。僕は誰よりも人のこころをしっかりと持った友達なのだというのを、皆にきちんと話してあげたいと思った。

これこそ、子どもから子どもへと発信された啓発のことばといえよう。

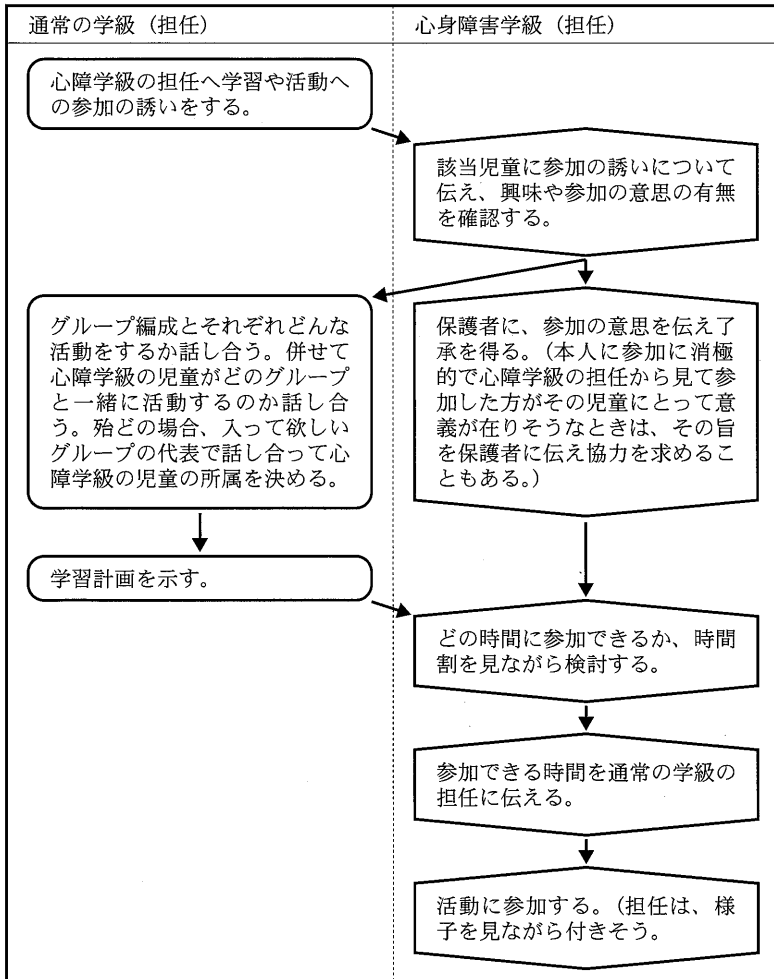
#### IV 交流活動と理解啓発授業の実際

心身障害学級と通常の学級の交流と通常の学級での障害理解啓発授業について、具体的な展開を呈示し、考察をすすめる。取りあげる実践は、平成17年度のものである。

## 1 交流活動

### (1) 通常の学級の行事・学習等への参加（心身障害学級からのアプローチ）

ここでは、心身障害学級から通常学級へアプローチする交流活動について取りあげる。まず、参加までの一般的な流れを、それぞれの担任の活動を軸に呈示する。



次に、具体的な活動の例をあげる。

〈一年生の例〉

- ◆音楽の授業に心障学級全員で参加（合同行事の七夕まつりの事前学習）  
事前学習として七夕集会で歌う歌を一年生と一緒に学習

- ◆国語の授業に心障学級二年生が2時間参加

〈二年生の例〉

- ◆生活科「お店やさん」に心障学級二年生が参加  
活動グループ決定後、一つの店の準備（通常学級の子に教わりながら遊び道具作り）・当日の店番、店周りも一緒に行動
- ◆生活科見学に心障学級二年生が参加  
一つの学習グループに入って見学

〈三年生の例〉

- ◆習字の授業に心障学級三年生が参加
- ◆学年行事（スポーツ大会）に心障学級三年生が参加  
年間2回のスポーツ大会（キックベース・リレー・ドッジボール・ポートボール）に参加（種目によって全員がボールの触ることができるルールも設定されている）
- ◆給食に週一回参加（決まったグループに入り一緒に会食）
- ◆日記やがんばりカードの活動に心障学級三年生が参加（日記や家庭学習を通常学級に提出）
- ◆秋の遠足に心障学級全員で参加（日程と内容が合う学年の遠足に参加）

〈四年生の例〉

- ◆3回の社会科見学に心障学級四年生が参加
- ◆総合的な学習に心障学級四年生が参加  
体育系の運動（一輪車・バスケット・竹馬・ダンス等）の学習発表会までの学習に参加（選んだ学習グループに入って）
- ◆図工の時間に心障学級四年生が参加

〈五年生の例〉

◆音楽鑑賞教室に心障学級五年生が参加

市主催でオーケストラの演奏を聴く（所沢市のミュージックホールまで出かける）・事前に一緒に全員合唱の練習も

◆二回の社会科見学に心障学級五年生が参加

◆総合的な学習の時間に心障学級五年生が参加

地域のお年寄りとの交流（1時間目から交流くお茶・ちぎり絵・将棋・タグラグビー等）・発表会まで1学習グループに入って）

◆学年行事に心障学級五年生が参加

行事（デイキャンプ）を挟んで事前（献立決め・買いだし等）、当日（飯ごう係・なべ係）、事後（体験のまとめ・発表会）の学習に参加  
〈六年生の例〉

◆移動教室に心障学級六年生が参加

総合的な学習の時間（2日目のコース別学習：アニマルウォッチング・探検・ハイキング・牧場体験等）とリンクさせ事前・事後・発表会まで参加

◆総合的な学習の時間に心障学級六年生が参加

近隣の幼稚園児との交流（幼稚園に行ってお園児と一緒に遊ぶ・学校に来た園児の二人を連れて学校内を案内して回る）

※以上の例は、年度や児童・保護者の希望等によって異なることもある。

〈全校行事（運動会の例）〉

◆各学年種目に心障学級該当学年児童が参加

心障学級児童の個々の特性（身体的に可能か）に応じて練習から団体競技、親子競技、走競技に参加

一年：全員参加（玉入れ・ボール運び・50メートル走）

二年：全員参加（借り物競走・デカパンリレー・50メートル走）

三年：全員参加（綱引き・二人三脚で箱運び・80メートル走）

四年：全員参加（棒引き・障害物リレー・80メートル走）

生野金三・豊澤弘伸・北村好史・桑原茂樹・中谷陽子

五年：全員参加（騎馬戦・全員リレー・100メートル走）

六年：全員参加（騎馬戦・全員リレー・100メートル走・ソーラン節）

〈特別活動の例〉

◆クラブ活動に心障学級四年生以上が参加

パソコンクラブ（四年B・五年AB）・家庭科クラブ（四年D・六年B）・クラフトクラブ（四年C）・ドッジボールクラブ（四年A）・バドミントンクラブ（六年A・六年C）

◆委員会活動に心障学級五年生以上が参加

〈前期〉理科委員会（六年A）・音楽委員会（五年A・六年B）・飼育委員会（五年B）体育委員会（六年C）

〈後期〉整美図工委員会（六年A・C）図書委員会（五年B）・理科委員会（五年A・六年B）

◆縦割り班活動に心障学級全員が参加

それぞれが当該学年のグループに所属し、グループ毎の活動（遊び）に参加

（1の1グループ：一年AC三年B・六年C）（1の3グループ：一年B・六年B）（2の1グループ：二年A・四年CD・五年A）（3の1グループ：一年D・三年A・六年A）（4の1グループ：四年AB・5年B）

◆縦割り班活動を活用した全校集会に全員が参加

各グループ毎に遊びの店を開く為の準備・当日の店周り

（2）心障学級の行事等への参加（通常学級からのアプローチ）

◆交流給食

毎週金曜日通常の学級の四年生が4～5名ずつ心障学級の教室に来て一緒に会食・食事をしながらお互い自己紹介（時間があれば一緒にゲームも）

◆総合的な学習の時間への参加

総合的な学習の時間（仲良しタイム）のイベント（遊びの店・スポーツの店・食べ物の店等）に通常の学級の1学年が参加

(3) 通常の学級と心障学級と共同での行事

◆七夕祭り

一年生と合同企画し、プログラムの作成や、係りを一緒に分担

◆お楽しみ会

二年（三年）生と合同企画し、プログラムの作成や、係りを一緒に分担

◆学習発表会

一・二年生と合同で企画し、プログラムの作成や係りを一緒に分担

## 2 理解啓発授業（学級活動）の実際

(1) 授業の実施時期

通常の学級の担任と事前に連絡調整して実施するが、基本的には、大きな行事の事前に実施することが多い。事後で交流経験を生かして実施することもある。

(2) 実施に当たって

事前に児童の実態をつかむために、アンケートを実施（二年生以上）し授業計画を立てている。

(3) 指導の実際（各学年の指導例）

〈一年生の指導事例〉

1. 単元名 青葉学級ってなんだろう
2. ねらい 青葉学級の様子について知る

3. 展開

児童の活動	指導上の留意点
<p>1. 青葉学級について知る。</p> <p>○手遊び歌をする。</p> <p>○青葉学級に関するクイズをする。</p> <p>発問1 青葉学級のお友だちは全部で何人でしょう？（18人）</p> <p>発問2 青葉学級の先生は何人いるでしょう。（8人と他にボランティアさん）</p>	<p>※少人数 複数担任 広域学区</p> <p>◇青葉学級一年生児童の学習時の導入活動であることを知らせる。</p> <p>◇自分たちの学級と対比させながら進める。</p> <p>◇児童、教員の紹介、児童の学区域について知らせる。</p> <p>（資料）児童、教員の写真市内略図</p>
<p>2. 青葉学級の学習内容を知る。</p> <p>○青葉学級の時間割表を見て、気づいたことを発表する。</p> <p>説明1 作業、生活単元、劇遊びについての説明を聞く。（青葉学級の児童にとって、どれも大切な学習である）</p>	<p>※全体学習 個別学習 班活動</p> <p>◇自分たちにはない教科があることに気付かせる。</p> <p>◇実際の児童作品写真などを通して関心を持続させる。</p> <p>（資料）拡大時間割表</p>
<p>3. 青葉学級の児童が取り組んでいる学習プリントに挑戦する。</p> <p>○利き手ではない方で、記名、波点線部のなぞり書きをする。</p> <p>○利き手ではない方で書いた経験の感想を発表する。</p>	<p>◇記名、最後の波点線部以外の一年生児童にとっては難しい問題に取り組ませる。</p> <p>◇思うようにいかない経験をさせる。</p> <p>◇繰り返し練習していけば、必ずできるようになること、できるようになるまでには、それぞれ個人差があることを知らせる。</p> <p>※個人差はあるが、繰り返し学習していくことで必ずできるようになる。</p>
<p>4. 本時のまとめを聞く。</p> <p>「人にはそれぞれ得意なこと、苦手なことがある。青葉学級に通っている児童は、苦手なことがみんなより少し多いので、少人数、複数担任で、わかる・できるようになるまでゆっくりと学習する。みんなに負けないくらい頑張って、スピードはちがうが、どんどんとできたり、わかったりしていく。同じ仲間として仲良くしていこう。」</p>	<p>◇青葉学級児童が現在努力していることとして、話すこと、手先を器用に動かすこと、文字の読み書き、予定が変わっても急激に動揺しない、人に自分の気持ちを伝えることなどであることを知らせる。</p> <p>※できるようになるスピードはゆっくりであるが、確実に伸びていくのは、みんなと一緒にいる。</p>



〈二年生の指導案例〉

1. 単元名 青葉学級と障害を知ろう
2. ねらい
  - ①青葉学級の様子を知る。
  - ②心身障害について基礎的な事柄を理解する。
    - ・障害は、直すことが出来ないが軽くすることはできる
  - ③人間には誰にも得意なこと苦手なことがあることを知る。
  - ④誰とも仲良くしようとする態度を育てる機会とする。
3. 展開（2時間扱い）

学習活動	指導上の留意点
1. 青葉学級のおおよその実態を知る。 ○青葉学級について知っていることを発表する。	◇子どもの名前、学習内容など。 ◇あまりでない場合は、青葉の子の名前・子どもの人数・教師の数・クラス分け・学習内容などヒントを出す。 ◇ポイントを板書する  ・子ども18人 ・職員5名 ・ボランティアが来ている ・1クラスの人数が少ない ・マラソンをしている ・調理をしている ・七夕祭りを一緒にやった ・徒歩や買い物に出かけている ・ローラースケートをやっている ・どんぐり拾いに一緒に行った…  <p style="text-align: right;">個・思考・発表</p>
2. 青葉学級での授業の一部を体験する。 ○青葉の国語・算数の課題の一部を解く ○やってみた後、感想を発表する	ワークシート（B組の課題を用意する）  ・簡単にできる ・課題がカラフル ・絵などが多い ・一人一人課題が違う…  <p style="text-align: right;">個・作業・思考・発表</p>
3. 2年2組と青葉の違う点を考える。 ○自分たちの学級と青葉学級の大きな違いを探す	グループ毎に2～3見つけさせる。画用紙に箇条書きさせる。自分たちと青葉学級の子との違いでも良いということをさがさせる。

・青葉の子は苦手なことが多い ・勉強の内容が違う(易しいことからゆっくり学習している) ・一人一人ちがう課題に取り組んでいる ・子どもの数が少なく教師が多い…

グループ・思考・作業・発表

4. 青葉の子も含めて人には得意なこと苦手なことがあるをつかむ。  
 ○自分の得意なことを書く  
 ○苦手なことをするとき、どうしてほしいか考える  
 ○苦手なことをしているのを見つけたらどうするか考える

個・作業・思考・発表

5. 青葉の子は、障害があるののほかの学級の子達に比べ苦手なことが多いことを知る。

ワークシート。  
 個性のグラフで「得意不得意なことはだれにでもあり、人によって得意不得意なことは違う」ことを押さえる。  
 個性のグラフで全体に棒が低いことに着目させる。

・苦手なことは多いが、他の学級の子と同じように頑張って力を付けいる  
 ・苦手なことが多いのは、生まれつきの障害(青葉の子達は、脳の一部が傷ついて産まれてしまった)による。障害は治すことは出来ない。  
 色々な手助けによって軽くすることは出来る。

個・思考・発表

6. 同じ人間として誰とも仲良くすることを知る。

「障害」と板書する。

・好きで障害を持って生まれたり、障害になったりする人は、いない。  
 ・青葉の子は、どんなことが苦手かどうかどうすれば軽くすることが出来るの考えほしい。  
 ・青葉の子も一人ひとり違う。話しかけたり、一緒に活動したりしながら、どんなことが苦手なのかどうすれば、みんなと同じようにできるのかを見つけてもらえればうれしい。  
 ・そのことは、障害があるなしにかかわらず、誰も苦手なことがある。そこをお互いに助け合っ  
 て仲良くしていけるとよい。

個・思考

7. 青葉の子や同じ組の子ともっと仲良くするにはどうしたらよいか考える。  
 ○誰とも仲良くする方法を考える

個・思考・作業・発表

30日の遠足でのことでも良い。授業の感想でも良い。  
 ワークシート。  
 2～3例発表させる。

4. ワークシート（学習結果）

<small>あおば がっせいの</small> 青葉学級について	2年1・2組（80名）
○わたしのとくいなこと 水泳 16 / 体育 12 / ピアノ 9 / 算数 9 / 音楽 7 / 勉強 6 / ゲーム 6 / 図工 5 / 絵 5 / 国語 5 / 縄跳び 4 / 野球 4 / 走る 4 / 計算 3 / サッカー 3 / バスケットボール 3 / 一輪車 3 / 遊び 3 / ドッジボール 2 / 鉄棒 2 / テスト / 漢字 / 手伝い / マラソン / おしゃべり / かけ算 / バレー / お手玉 / うんてい / 寝る / 本の早読み / 自転車 / プリント / 新体操 / 折り紙 / タイヤ跳び / バトン / カルタ / 体の柔軟性	
○いろいろなともだちともっとなかよくするために… 助ける（助け合う） 37 / 一緒に遊ぶ 20 / 仲良くする 15 / 話す 15 / 優しくする 14 / 声をかける 13 / 自分から誘う 12 / 教える 10 / 手伝う 9 / 一緒に考える 8 / 自分がされて嫌なことをしない 6 / 守る 4 / 体のことを言わない 4 / 言われて嫌なことを言わない 4 / 友達になる 2 / 言い方を変える / けんかを止める / 答える / 慰める / 支え合う / けんかしない / 暴力をしない / 何かされても我慢しやり返さない	
○きょうのじゅぎょうでわかったことおもったこと 障害について 17 / 青葉は障害 8 / 障害の人はかわいそう 5 / 青葉の勉強 3 / 青葉の人はこうなんだ 3 / 優しくする助け合う 3 / 障害になる理由 2 / 世界には障害者が多い 2 / 障害の人を助ける 2 / 障害者の動き 2 / 障害者は苦手なことがある 2 / 障害者のために色々道具を使う 2 / 障害と病気は違う 2 / 足がない・体の半分がない / 青葉を助ける / 障害者のお母さんが優しい / 目の見えない人を助ける / 障害の名前 / 目の見えない人・体が半分の人・イヌに案内してもらう人 / 障害の人がいた / 手伝う / 障害者はかわいそう / 色々なこと / 青葉には教師が多い・ボランティアもいる / 産まれたときから障害になることも / 身体障害者・青葉は大変 / 産まれたとき足がない / 障害は治らない / 足がないのにスキーをしている / 障害は時には有名人になる / 病気の人に優しくむずかしいこともやさしいこともあった / 障害があっても生きるのを頑張っている / いろいろな障害がある / 障害でも出来ることはある / 障害者のために色々道具を使う / 青葉はあまり学習の力がない	

〈三年生の指導事例〉

1. 単元名 青葉学級と障害を知ろう
2. ねらい
  - ①心身障害について基礎的な事柄を理解する
    - ・障害があると物事に時間がかかる
  - ②言葉がなくても心が通じることを理解する
  - ③青葉の子たちをより理解する機会とする

### 3. 事前アンケート (68名実施)

#### 1. 青葉の子の名前を知っているだけ書いて下さい。

一年A 4 / 二年A 6 / 二年B 8 / 三年A 34 / 三年B 48 / 三年C 34 / 四年A 1 / 四年B 18 / 五年A 16 / 五年B 12 / 六年A 10 / 六年B 21

#### 2. いっしょに遠足に行つて、青葉の子について感じたこと・思ったことを書いて下さい。

みんな(掃除がうまい) / 一年A (一生懸命歩いているのすごいなあ思いました) / 四年A (一生懸命歩山登りをされていてすごいなあ思いました) / 四年B (おもしろい・一生懸命歩いていた・ムーミンの家でいろんな所に登っていました・足が速い2) / 四年C (がんばって歩いていた3) / 六年A (山道でどんだん先に行っちゃって困りました・とっこさきぎに歩いていっちゃたので名前をよんだらちゃんと待ってくれました・先にいっちゃいました2) / 六年B (Bくんにいつもぼくは声をかけてます・登りで一生懸命登っていた)

#### 3. 青葉学級について知っていることを書いて下さい。

青葉には障害がある 4 / 知的障害のある子が、みんなと触れ合えるように普通の小学校にある学級・青葉学級は教室が2つしかない / 青葉学級の子の方が多し / 少ない人数なのに先生が多い 5 / 障害や病気がある人が青葉学級に行っている / 障害のある人達が少人数で自分に合った勉強を分からない所をやること…。 / ちょっと障害があるけど普通に勉強したりみんなにはついていけないけど一生懸命勉強していました。体育の時なんていっぱい走っていました / 障害を持っている(子) 15 / 私達が遊んでいる時いつまでも追いかけてきた / わたしが幸せなら手をたたこうと歌ったら通りかかった子が手をたたいてくれました。とても嬉しかったです / 障害者がいる場所 / おいかけてもらっていた / 自分が苦手な勉強をやっている / Aくん走るのがんばってね / 1年～6年の子が混ざって病気をやっている事 / 脳に傷がついている / Aちゃんは、走るのが速い

#### 4. 障害について知っていることを書いて下さい。

生まれつきで思っていることを言葉に表せない、うまくしゃべれない、よく耳が聞こえない 2 / 生まれる前。生まれたあと。体がつかえない。など…それはまだよく知られていなく、解明できていない / ずっと前、私は、買い物に行ったとき、女の人がいました。あっちこっちいってふらふらしてました / 生まれた時に何かあってしまった人や事故で障害者になってしまったのかと思います / 手がなかつたり足がなかつたりちょっとおかしい人の事・普通では言えない、できないことをしている / 車いすののっている人をたまに見る / 生まれたとき、変わった生まれかたをした人のこと / テレビで両手がない子を見たことがある 2 / 知らない人で何か声をかけられます / いろいろな病気 / 目線が合っていない 3 / 独り言を言っている人 / 手足が使えないこと 3 / 障害は、脳障害と体の障害の2種類ある / 身体障害 2 / 車いす、黒めがね、白いいすを持っている人と、聴導犬、盲導犬、補助の人を連れている人、点字にふれている人 / 聴力障害

5. 青葉学級について分からないことやもっと詳しく知りたいことがあれば書いて下さい。

青葉はなぜ青葉というか／ご飯は作っているんですか／家庭科はみんなががんばっているんですか／青葉さんは何人みんなの名前／青葉学級は今、6年～1年中で一番上の子は何年でしょうか／どうやって勉強しているの／なんで障害が、しゃべれるけどうまくしゃべれないの／どんな勉強（授業）をしているのですか／スケジュール 10／私達のように国だったら国、算だったらその時間にやるのですか／1日何時間めまであるのですか（授業）体育はありますか／分からないことをやるとき一人一人ちがければどうやるんですか。先生3～4人ぐらいまでしかいないのに／どうしたら障害治るんですか／どんな問題をだしている／どうしたら障害になるんですか・どんな遊びをしているか

6. 障害について分からないことやもっと詳しく知りたいことがあれば書いて下さい。

青葉学級の子はみんな障害は同じなんですか／勉強はどうやってしてるの／いたずらとかしてるときって無意識でやてるんですか／どうしてそんなに普段できないことができるんですか／事故や知的障害があるけれどどれが一番多いのですか／どうして障害になるんですか 2／どうゆう障害があるか／障害は、どうしたら治せますか／治るんですか 2／どういのが障害っていうんですか

7. 青葉の担任に話したいことがあれば教えて下さい。

一番青葉の担任になって良かったことは何ですか／一番困ったなあと思ったことは何ですか／病気と障害どこがどういふふう違いますか／どのように障害ができるんですか 4／なんの勉強（授業）をしてるんですか 7／青葉の子たちはどの障害が多いのですか／どんな障害か／青葉は楽しいです／青葉はどんな隊形で給食を食べているのですか／青葉のお友達はどういふふう生活していますか／みんなの障害をもっと知りたいです 2／どんな障害あるか教えてください／生まれたときどんなかたちで生まれたのですか／どんなきっかけで青葉学級の先生になったのですか／障害ってどうゆうときになるんですか 2・青葉の担任は、何人いますか 2・青葉の教科書はありますか・漢字とかは書きますか・青葉は1クラス何人ですか 2・掃除は廊下以外どこをやっているんですか・障害の人を勉強させるのは、大変ですか・なんで青葉の先生になりかたつかの 2

4. 展開（2時間扱い）

学習活動	指導上の留意点
<p>1. アンケートの結果の一部について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力お礼</li> <li>・青葉の子全員の名前が分かっていた</li> </ul> <p>2. 2年生の障害についての学習を思い起こす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な復習クイズをする</li> </ul>	<p>ワークシートの利用。 答え合わせをしながら簡単に説明する 人体図</p>
<p>障害とは、体の一部が傷ついたり、失われたりして、普段の生活がうまくできない状態。／障害には、知的障害と身体障害がある。（手や足などを失う（使えない）ことを身体障害。／脳が傷つく（傷ついている）ことを知的障害。（青葉の子たちは知的障害）・障害は、治らない。軽くすることはできる。／障害に、いつなるのか。／生まれる前（母親の胎内で何らかの原因で）・生まれるとき（産声がです呼吸が遅れ酸素が脳に行かない／頭が傷つくなど）／生まれた後（高熱が続く・事故など）／障害は、誰でもなる可能性があが、あまりびくびくする必要はない）／人は一人一人違ってよい。</p>	
<p>3. 障害の体験をし、障害がないときとの違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話すことに障害、目に障害、話すことに障害のある人に役割分担し、伝言ゲームをする</li> <li>・利き手をグーにして名前を書く</li> </ul>	<p>代表3名が演じさせる。 （障害のない場合も想定し比較する） 体験を発表させる。 ワークシートに自分の名前を書かせる。</p>
<p>障害がある場合は、伝えたり、作業したりがスムーズにいかない。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの障害を軽くする方法を考える。</li> </ul>	<p>写真（耳の障害の場合）などを見せる。</p>
<p>写真やサイン・信号の音・歩道のブロック・点字・手話・補聴器など</p>	
<p>4. 話すことに障害のある人と心は通じるか考える</p>	<p>グループ毎に話し合いまとめる・イヌとの関係で考える。（絵） 言葉のやりとりができて心も通じないことがあることも例を出して押さえる。</p>
<p>相手を大事にし、一生懸命分かろうとする気持ちで心は通じ合う。青葉の子に対してでもクラスの友達に対しても同じである。</p>	

<p>5. 「青葉の子は少ないのに先生の人 数が多い」のは何故か考える。</p>	<p>今までの学習から考えさせる。</p>
<p>物を覚えたり考えたりすることがなめらかにいかないで、時間をかけ一人一人に合わせて学習進めたいので。</p>	
<p>6. 今日の学習で分かったことをまとめ める。</p>	<p>青葉の教材例（個に応じた物）を提示する。 ワークシートに書かせる。 青葉の子の得意なことも紹介させる。</p>
<p>青葉の子は、学習面では、遅れていることが多いけれど、得意のこともありみんなと同じように一人一人大切な存在。これからもクラスの友達と同じように声をかけたりしてくれると嬉しい。</p>	
<p>・4年生になると交流給食あることを伝える。</p>	

## 5. ワークシート（学習）結果

<p>★分かったこと・感想</p> <p>2年の時よりよく分かった 4/青葉が遅い理由が分かった/青葉学級は、知的障害学級であること/言葉が伝わる/目が見えない子に伝えるのは大変 2/障害になるのは、生まれる前や生まれた後であることがわかった 8/知的障害と身体障害をまとめて心身障害という 6/青葉学級は知的障害/病気と思ったら障害は、病気と違う/知的障害身体障害があるのに生きているなんてすごいです/障害が軽くなるのが分かった 3/青葉さんは、先生の話を開かないけど頑張っているんだな/障害でも色々な障害があること 2/青葉の先生の名前を教えてください/障害のある人のことが色々分かって良かった 5/ぼくも障害にならないようにします/ちょっとだけかわいそうでね病気と同じで治ると思ったけれど治りません/障害があるととても大変なこと F/目や耳が使えなくても気持ちは伝わる/選挙のお知らせでも点字が使われてるなんて初めて知った/犬を使ってどのように助けるのか/障害は一生治らないけど頑張って命を大切にしてください/青葉の子は1ヶ月の勉強をどのくらいの期間ですのか/青葉さんのことが分かったような気がします/言葉が話せなくてもジェスチャーや手話で伝わること 2/手をやけどして字をぐーで書くは大変だなと思った/障害はいつなるか分からないことがわかりました/青葉さん頑張っていますね/知的障害や身体障害の子は本当に大変だと分かった/なぜ障害を持っている人は点字などそういう字がわかるのですか/結構障害のことは、テレビ本で見たことがあって、それに興味があって、見ていたけど、今日はまた教えて</p>
---

もらったりして、気持ちが伝わらなくてストレスがたまったりするんだなどと改め改めて思いました。これからも調べたいなあと思いました。青葉の人はかわいそうとだと思った／いろんなことを教えてくれて楽しかった。青葉さんの人は、どうして朝マラソンをしているのですか／目の見えない人や口に聞けない人のために色々工夫をしているのがわかりました

★復習クイズ正解率

- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 1. 障害には、大きく分けて知的障害と身体障害がある。 | 85% |
| 2. 知的障害と身体障害をまとめて心身障害という。   | 43% |
| 3. 障害は、病気と同じである。            | 48% |
| 4. 障害は、治る。                  | 76% |
| 5. 障害は、軽くすることができる。          | 43% |
| 6. 障害になるのは、生まれる前である。        | 64% |
| 7. 障害になるのは、生まれるときである。       | 42% |
| 8. 障害になるのは、生まれたあとである。       | 34% |
| 9. 人間は、一人一人ちがっていてよい。        | 92% |
| 10. 青葉学級は、知的障害学級である。        | 82% |

〈四年生の指導案例〉

1. 単元名 青葉学級と障害を知ろう

2. ねらい ①今までの学習を思い出す。

障害には大きく分けて、身体障害と知的障害があり、青葉学級の児童は知的障害である（学習障害にも簡単にふれる）

②障害はだれでもがなる可能性がある。又、障害をもちながら自分を伸ばそうとしている人、またそれを援助している人がいることを知る。

③青葉学級の学習の内容を知り、同じ学校の友達として温かい気持ちを持つ。



3. 事前アンケート

今度、皆さんの学級で、青葉学級の友だちのことをよりよく知るための学習をします。そこで、皆さんの知っていることや聞きたいことを教えて下さい。

1. 青葉学級の児童の人数は何人だと思いますか？

(略)

2. 青葉学級の知っている友だちの名前を知っているだけ書いて下さい。

(略)

3. 今まで、いっしょに交流、クラブ、たてわり等で遊んだり、学習したりしたことで心にとっていることがあったら、書いてください。(たのしかったこと、いやだったことなんでもよいです。)

お楽しみ会が楽しかった 4 / 青葉と学習発表会 (音楽会) 7 / アイウエオリババがおもしろかった 2 / 少しはずかしいと言っていた / シーズにいっしょにのった 2 / 遠足にいっしょに行った 3 / シーズーでじゃまされた / ほうきでたたかれた 2 / 運動会で借り物競走をいっしょにやった / 一、二年でお店をやった / 遊んだ / 青葉のおどりが楽しかった 3 / げきの歌をあんきしていた / ひょこりひょうたんじまの合奏がすごかった / くびをしめられた / そつぎょうしていなくなったのがいやだった / 学校案内のときに一年生をつれていった 4

4. 青葉学級のことで知っていることがあったらなんでも書いてください。

障害のある人がいる 10 / 知的障害の人がいる 3 / 身体障害の人がいる / 体育はダンスとか / プレールームがある / 障害を持っているのがんばっている 2 / 一年～六年がいる / 学年毎に勉強がちがうのか / 先生がいっぱいいる

5. 青葉学級のことでもっと知りたいことがあったら書いてください。

一年は何人 / ほかの青葉の友達の名前をしりたい 3 / どういう生活をしているのか 4 / どんな授業をしているのか 10 / 国語の時間どうしているのか / 身体障害を知りたい 2 / いつも校庭で走っているんですか / 特徴 / いろんな障害があるのを知りたい / 授業で歯磨きがあるのは本当 / 何人か 2 / どうして知的障害になってしまうのか / どうして障害をもっているのか

4. 展開

学習活動	指導上の留意点
<p>○アンケートから青葉学級について知っていることや疑問を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで一緒に遊んだことや、交流、活動等を思い出す</li> <li>・青葉学級の内容の紹介と学習を紹介し、障害の疑似体験をする</li> </ul> <p>①青葉学級の紹介（人数、名前、時間割、学習内容等）</p> <p>②障害には、大きく分けて身体障害と知的障害があり青葉学級の児童は知的障害であることを確認する</p> <p>③障害をもちながら、少しでも自立して生きていこうとする人、それを支え、愛している家族がいることを知る：秋雪ちゃん（知的障害）、レーナマリア（身体障害）、トムクルーズ（学習障害）等</p> <p>④青葉学級の学習の紹介と体験・変形じゃんけん1・2・3…ルールをつかむまで「わからない」という持ちを体験・青葉の学習プリントをやってみる</p> <p>△がんばれがんばれと励ましたりするだけでは解決しない</p> <p>○学習しやすい環境をつくること（これは青葉学級でやっている学習の基本）</p> <p>○まわりの人の理解がないととても気持ちが悪くなる</p> <p>⑤障害名が大切なのではなくて、A君、B君、Cさん、D君の個性、特徴、その子にしかない良さがある。着実に成長している→みんなと同じ</p> <p>○A君、B君、Cさん、D君は今どんな気持ちだと思う？</p>	<p>写真カード、学習の絵カード、ワークシート</p> <p>身体 の 図 ・ 板書カード 写真、本、 VTR</p> <p>待つ、笑わない、指を指さない、じろじろ見ない…etc</p> <p>写真を見せる</p>
<p>あなた自信がそう思っているだろう、と想像してくれたらだろう、と想像してくれたことがなによりうれしいし、私達大人が感じるものより正解に近いかもしれない</p>	
<p>○感想を書こう、もっと知りたいことがあったら書こう。</p>	

5. ワークシート（学習）結果

<p>1. 青葉学級といっしょにやったことで一番たのしかったことはなに 風船バレーボールでメダルをもらってすごくうれしかった／運動会 2／ゲームワールド 9／縦割り班／青葉と遊ぶう会（二年）2／三年の時の交流遊び／ゴルフ、ホッケー、バスケ、中休みにEちゃんと遊んだ／三年の時のムーミン村の遠足 24／F君と遠足に行行って楽しかった／遠足でG君とH君と同じグループでおもしろかった／音楽会 15／お楽しみ会 5／プレールーム遊び 2／ユネスコ村／I君とおにごっこ、Jちゃんと遊んだ／学童でKちゃんに紙をもらってすごくうれしかった</p>
<p>2. 心身障害とは （略）</p>
<p>3. 今日、わかったことをなんでも書いてください （略）</p>
<p>4. これからいっしょに給食を食べたり、運動会の練習をやります。自分にできること、楽しみなこと、わからないこと 運動会の練習／一緒に給食を食べるのは久しぶりです／一年から青葉の種目に参加した。またやりたい／Cさんは学習障害ですか／一緒に給食を食べて青葉学級のことを知りたい／給食と一緒に食べるのが楽しみです 15／これからも一緒に遠足に行くのが楽しみ 2／先生はなんで青葉学級にはいるたかだったんですか／運動会で一緒にやるのが楽しみ 11／A君はドッジボールクラブだけどほかの人は何クラブですか／日光に行くこと／体育は体育館でやることはあるんですか／なぜ障害者が集まる所が青葉なんですか／青葉さんのひとも中間に入れる／みんなそれぞれどんな性格なのかわからない／運動会青葉さんも一緒に精一杯がんばろう／人を静かにすることしかできませんがこんなことしかできませんけど使ってください／みんないっばいがんばってるパワーはどこからでるんですか／青葉のみんなが運動会で何かおこったら声をかけて状況を聞きたいです／他にはどんな生活をしているか／なんで青葉学級というの／一緒に練習を手伝う／運動会は楽しいよとか相手を楽しませること／青葉さんと走る時青葉さんはどのくらい速いか競争してみたい／今度の障害についての学習はいつかなと楽しみにしています／給食の時Fちゃんと食べられたらいいと思います／青葉の子と仲良くする 2／障害がある人は大変だなあと思いました</p>

〈五年生の指導案例〉

1. 単元名 青葉学級と障害を知ろう
2. ねらい ①青葉学級の教育課程は、通常の学級のものとは違うことを理解する。  
②①を理解することで、障害に対する理解をさらに深める。

③誰とも仲良くしようとする態度を育てる機会とする。

3. 事前アンケート

1. 4年生の時の障害に関する授業で覚えていることがあったら書いてください。  
身や心の病気のなどの障害がある／知的障害 12／身体障害があつて苦しんでいる 11／ふざけて障害と言ったりするのは障害の子に悪い、みんなと同じように思つて欲しい／心身障害者に悪口を言つてはいけない 3／障害者に手紙を書いた／障害以外普通の子と一緒に／うまくしゃべつたり自分のやりたい通りに出来ない 3／ボールのキャッチができない／うまく歩けない／障害に関すること 3／障害とは／障害は生まれたときから心や体に不自由がある／なりたくてなつたのではないので差別しない 2／障害になる時期は、みんな違う／障害は交通事故や生まれてくるときなる／障害のある人は辛い／普通の人は少し違う／治らない／色々な子がいる／障害とはどういうことか 2／生まれる前、生まれるとき、生まれた後に障害が 2／覚えていない 15／手足頭が自由に動かせない 2／心と体に障害のあること 2／アンケートで青葉の子を知っているかと／知的身体障害／青葉は心身障害／簡単に「心障」と言わないでほしい

2. 青葉学級や障害について知っていることがあったら書いてください。  
耳が聞こえない／うまくしゃべれない 2／青葉は知的障害、みんなと一緒に暮らせない／反射神経があまり良くない、その他出来ないことがある／生まれたときになつて治らない／身体に病気があつてみんなと少し違う、身体のどこかが不自由／分からない 4／青葉は障害があるけど元気で明るくよい人だ／青葉はどこかに障害のある人／青葉は身体に障害で身体の成長を妨げる障害のこと／障害とは何か不自由がある／障害は一生治らない 2／生まれた時に知的障害、身体障害なる／T君に会う／好きで障害になつたわけではない／プリントで学習した／青葉はちょっと障害を持った人、障害は身体がうまく動かない／その障害は自閉症（名前だけ聞いた）／青葉は、言葉をみんなにしかり言えない、とってもいい子でやさしい、にこにこしている子が多い／目が見えない人 2／耳が聞こえない／青葉の人は普通の人じゃない／クラブの時青葉の子がいた／Eさん 16／G君 7／Fさん 17／遠足や見学などに行く／給食 3／プール掃除・勉強・図工クラブを一緒にしたから・じょうろで水をやっているから知っている・自閉症、しゃべらない／歩けない障害／青葉の紹介のポスターで1年から6年までの交流の様子が書いてある／H君 3／1、2年の頃一緒に遊んだ 3／Eは目が合うと笑つたり反応してくれたりする、みんな挨拶してくれたりする／いやがられているけどみんなやさしい、からかうのが私には分からない、一生懸命頑張っているところがよい／みんな協力し合っている／2～3年の頃Eと仲良しになつて遊んだことがある／体育で一生懸命ジグザグ走をしていた／Hと遊んだりEとおしゃべり、Gとお話／青葉は知的障害／青葉という名前／遊園地に招待してもらつた／学童でGと遊んだ／色々招待してくれ嬉しかった／卒業した子の名前、今いる子の名前／給食の後歯磨きをしている／知的と身体障害 2／目の障害、耳の障害／色々な会や遊びに誘つてくれた／クラスが分けられている／移動教室とかが結構ある／地域の人たちと仲がいい／生まれたときになつたり、物事があつてなることがある

3. 青葉学級や障害について疑問や知りたいことがあったら書いてください。  
 授業時間何時間か 3 / どんことをしているか / 休み時間どんなこと 2 / どん授業か 13 (徒歩や宿泊学習は年に何回か・山登りとかいろんな所に行くのは) / 1年から6年まで違う授業か / 殆どが自閉症か / 1～6年までいるか 2 (教師と併せて何人か 7)・Fちゃんの声は(普通の声か障害か・障害者は日本に何人か・看板で思いっきりぶたれた / 卒業したらどこに通うか / 休み時間は何をしているか / どういう風に接したらいいか / 青葉の先生は、なぜあんなに生徒と心を通わしているのか / 看板で思いっきりぶたれた / プレールームには何故いろいろあるのか / どうして元気に遊ぶのか、みんなと一緒に勉強が出来ないのか 3 / 給食の後に歯磨きをするのは何故か / 障害があるのに普通の子と同じ勉強が出来るのか / 普通学級より学費は高いのか / 全学年一緒にやるのは何故か、1階にあるのは何故か / 食べ物を普通の子と同じように食べるか / 何故障害になったのか / 何故青葉学級と呼ぶか / どうして違ったことをするのか / 障害は何故変と思われるのか / その子のお母さん達は障害があるのか (あったら生活はどうするのか) / いつも何をやっているのか 2 / どうして青葉があるのか (出来たか) 3 / どんな病気が多いのか / 同じように生まれたのに普通と障害があるのか / 手や足のない人が生まれた時になるケース、どんなケースが多いのか / 障害で不便なことは / 障害者はどのような暮らすか / 青葉の子と一緒に遊べるか / 何故障害を持って生まれたか不思議 / 障害はどういう病気か / 自閉症とはどんな障害か / 誰かに意地悪などされたりはしないか / うまくしゃべれない人は障害か / 口がきけない人も障害か / 障害は治るものと治らない物があるのか

4. 展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1. 青葉学級や障害に関する問題を解く。</p> <p>昨年の授業を思い起こしたり、自分の体験、知識を基にしたりし問題を考える。</p> <p style="text-align: right;">思考・作業</p>	<p>事前アンケートを参考に問題を作成する                      時間をかけずに解かせる。                      ワークシート</p>
<p>2. 青葉学級の教育課程や障害のおおよそを知る。</p> <p>感想や思ったことを書き込みながら解答を確認する。</p> <p style="text-align: right;">思考・作業</p>	<p>時間割等資料を掲示する</p>

<p>3. なぜ青葉学級の教育課程は、通常の学級のものとは違うのか考える。</p>	<p>グループごとに話し合い考えをまとめさせる。 グループごとに発表させる。</p>
<p>自分の書き込みを基にグループで意見を出し合い考える。 <b>思考・作業・発表</b></p>	
<p>個別のグラフ等を活用して通常の学級と比べさせる。</p>	
<p>障害は、治せないけれど、軽くすることは出来る。 <b>思考</b></p>	
<p>4. 自分たちも青葉の子もみんな個性があることを知る</p>	<p>個別のグラフ</p>
<p>・青葉の子も一人ひとり違う。話しかけたり、一緒に活動したりしながら、どんなことが苦手なのかどうすれば、みんなと同じようにできるのかを見つけてもらえればうれしい。・障害があるなしにかかわらず、誰も苦手なことがある。そこをお互いに助け合って仲良くしていけるといい。 <b>思考</b></p>	
<p>5. 今日の学習でこれからの自分の生活で生かしたいこと・分かったことなどをまとめる。</p>	<p>ワークシート <b>思考・作業・発表</b></p>

### 5. ワークシート（学習）結果

○これからの生活に生かしたいこと・分かったこと  
 青葉の人たちは、私達と違って出来ないこともいっぱいあるから、徒歩学習とかに言っても「ずるい」など嫌なことは言わない 6 / 家庭科、理科、社会は、ほかの教科に入っている / 「生活」「自立活動」「生活単元」「劇遊び」がある 11 / 私達と少し違う所があるかもしれないけど、みんな同じだから仲良くしたい / 青葉さん達をいじめていたら注意する / 青葉の子たちとよく遊ぶ / 他に青葉学級があるところは、K小N小などがある 3 / 青葉には科目が自分たちと違う単元がある / 速くやるだけが授業じゃない / 時間をかけて授業することも大切だ / 青葉学級の事をこの勉強をしてとてもよくわかりました / 中にはすぐくびっくりするような事もありました / 青葉の子は、話すのが苦手なのが分かった / 青葉の子で行き帰り長いルートを歩いている子がいるらしいからすごいなと思った 3 / 青葉の子は、いろいろできないこともあるけれど、がんばってやっているなあとと思った 11 / 青葉の子は、みんな違って苦手なことも違うか

ら、一人一人違うことをやったり宿泊学習をしたりする／青葉の子たちは、私達と同じ時間勉強しているのが分かった／8番で、最初「すごい」と口に出してしまったけれど本当は、同じ人間なのだから、すごいとか言うのは、いけないと思った／障害者は、苦手なことがあるけど、全然悪くない 2／普通の人でも苦手なことがあるから 2／青葉の子どもは、いろんな所から歩いてきたり 2／色々時間を使って覚えさせていくってということが分かった／青葉の人は、みんな得意なことがある／一番の苦手は、話し合い／みんなと違う所はあるけど、これから勉強などを頑張してほしい／やっぱり交通事故にも気を付けて暮らしたいです 3／なるべく知的障害のある人には優しくする／薬のせいで障害になるなんて知らなかった／僕たちは障害にならなかつたからラッキーだと思う／病気は、治るけど障害になったら治らないから障害のある人がかわいそうと思った 2／百人に対して4人～6人と結構多かった／どんな障害があっても中学校までは義務／青葉の中学年は、今国語のカタカナをやっている／体育などは他の人が来てくれているということも初めて知りました／青葉が卒業したら中学に行くのは知っているけど三中とかではなく他の場所に行くのか知らなかった／青葉には一組二組があるのがよかった／それぞれ1年～2年まで二人ずつだと分かった

〈六年生の指導事例〉

1. 単元名 青葉学級と障害を知ろう
2. ねらい ①青葉学級に通う子ども達、特に同じ6年生の青葉学級の児童についての理解を深める。  
②障害についての理解を深める。  
③人にはそれぞれのよさがあることに気づき、それを尊重できる態度を育てる。

### 3. 事前アンケート

#### ○知っている事柄

知的障害 88% / 身体障害 95% / 情緒障害 9% / 発達障害 34% / 自閉症 61% / ダウン症 57% / LD 4% / 学習障害 27% / ADHD 2% / 注意欠陥多動性障害 9% / ADD 4% / ディスレクシア 2% / 光とともに 50% / たったひとつのたからもの 52% / アスペルガー症候群 13% / 高機能自閉症 5%

#### ○特に知りたいこと

知的障害 4% / 身体障害 2% / 情緒障害 5% / 発達障害 5% / 自閉症 13% / ダウン症 41% / LD 34% / 学習障害 23% / ADHD 32% / 注意欠陥多動性障害 36% / ADD 29% / ディスレクシア 23% / 光とともに 16% / たったひとつのたからもの 11% / アスペルガー症候群 38% / 高機能自閉症 41%

#### ○運動会や移動教室で思ったこと（抜粋）


青葉の人でも、みんなといっしょにやれば友達もふえるし、いろいろなことにふれ合えるってことが分かりました。青葉のみんなといっしょに運動会ができてよかったです。／たしかに言葉はいつもききとれるが、たまに何を言っているか分からないことがある。学習面や生活面で普通の人たちとの違いがあると思いました／体に害はあっても、一緒に運動会などをやっているうちに、6年1組の友達だと思いこんでしまったことがあった・青葉の人でもみんなと一緒にふれ合えば仲よくなれるということであらためて分かりました。一緒に運動会をやっていて楽しかった／みんな一生懸命やっていて、障害を持っていない普通の人だと思うぐらいがんばっていた／青葉の子いつも明るく元気でとてもしゃべりやすいです。どの子どもががんばり屋で少しだけそうじを手伝ってあげたらそのあともがんばってやってくれました。その時はとてもうれしかったです。青葉のお友達はすぐ仲良くなれるので、みんな大好きです

#### ○その他知りたいこと（抜粋）

障害者になってしまった原因／言葉をうまくききとれなかったとき、傷つけずに聞きかえすのはどうしたらよいか／障害者によるスポーツはあるのか／青葉学級の子との接しかた／私の将来の夢はダウン症の子やふつうの子がかよう保育園の先生か、青葉の先生になりたいのですが、どんな資格をとるのでしょうか



4. 展開

学習活動	指導上の留意点
<p>○青葉学級&amp;心身障害、復習クイズ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青葉学級の子どもの人数は18人である ○</li> <li>2. 青葉学級の児童は知的障害である ○</li> <li>3. 障害はお母さんのせいである ×</li> <li>4. 「シンショウ」とは心身障害を略した言葉である ○</li> <li>5. 青葉学級の正式名称は心身障害学級、略して心障学級である ○</li> <li>6. 障害は薬で治る ×</li> <li>7. 青葉学級では算数や国語などの勉強はやっていない ×</li> </ol>	<p>病気ではないことをおさえる</p> <p>誰のせいでもなく、先天的な障害は原因不明なことを伝える</p>
<p>小さな体験をしてみよう（知的障害の体験はとても難しいが、やや近い体験）</p>	
<p>①ミラー迷路→目で理解したことと、手の連動の難しさ</p> <p>②隠れ文字→文字の理解のしにくさ ※手や目からの伝達のしにくさの図</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>③パーソナルスペースの体感→自閉傾向の人はパーソナルスペースが広く、突然入られると不安になる。不安度強い。調節することが難しい。 ※逆に狭い人もいる</p>	<p>鏡</p> <p>知的障害の体験はできないがこんな感じかもしれないということを伝える</p>
<p>これらの困難さを少しでも軽くするにはどうしたらよいか</p>	
<p>・大きい文字、カラフルな絵、ゆっくり繰り返し、温かい言葉かけ→これが青葉学級でやっている学習の基本</p>	
<p>青葉学級の6年生について知ろう</p>	
<p>・青葉学級の6年生の名前を確認する</p>	



単に障害理解啓発という観点だけでなく、通常の学級の児童のより望ましい人間関係づくりもねらいながら進めた。年に一度の授業では、学級の人間関係にまで及ばないが、少しでも役に立てばと思う。

#### 4 今後の課題

年一度であるが、理解啓発授業を実施することが定着してきた。今後は、心障学級の担任だけが授業するのではなく、通常の学級の担任も指導に関わるとさらに効果があがると思われる。また、障害体験の内容をさらに吟味して効果的な指導を目指したい。

## V おわりに

今回は、交流活動と理解啓発教育について、ノーマライゼーションの理念と特別支援教育の制度という点から取りあげ、その実践展開について心障学級（特殊学級）を対象として検証を試みた。

特別支援教育において交流活動と理解啓発教育への期待が高まるなか、その方法と内容については、ますますの開発が求められているといえる。「知識伝達型」の教育が一定の役割を持ちつつも、「体験型」の教育が重視されていく背景には、単に情報の共有だけでは、目指そうとする「共生社会」の実現には到達し得ないことを物語っている。

ワークシートに寄せられる子どもたちの言葉には、この問題への糸口が存在している。この点についてさらなる考察を続けるとともに、軽度発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）の児童生徒との共生を目指した教育のあり方を検討していくことを課題として設定するものである。

## 注

- (1) 「日本教育新聞」日本教育新聞社 pp.9-10
- (2) 堀正嗣 『障害児教育とノーマライゼーション』明石書店 1998 p.101
- (3) 同上書 p.102
- (4) 同上
- (5) 同上書 pp.106-108
- (6) 中央教育審議会答申「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」平成17年12月
- (7) 中央教育審議会答申では、特別支援教育を次のように定義している。  
「特別支援教育」とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。
- (8) 「人権擁護推進審議会答申」第1-1 平成11年7月29日
- (9) 「人権教育・啓発に関する基本的計画」第4章 2(4) 平成14年3月15日